磐城新聞

(二日夕刊)

休刊【大祭日の翌日】　定價【壹枚二錢、壹ヶ月五十錢、郵稅十錢】　廣告料【二行五十錢指定廿錢增】

發行兼編輯印刷人　遠沼龍輔

發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社

北海道秋風抄(三)

福田將夫

星野らしい男は、私に輕いゑしやくをして、其の男に入るなり話し掛けた「石山君、庇は大分良くなつたか」昔に變りない親切な奴である、石山と呼ばれた男が、嬉しさうな表情で「監督、もう大方いゝんです」と私の方を向いて「此の方が工業學校時代の親友の志村さんだそうで、先刻から尋ねて來てゐるんです」と云ふと、星野は私を一暼して懷しい表情・微笑を漂せ「おゝ、志村か、久し振りだつたなあ!」と抱きついて來た私の網膜にも熱い泪が滲んでゐた。

「荒くれた人夫を追ひ廻す俺、こんな山の生活を爲して生きてゐる俺。人間の溫情に接することが餘りない性か、妙に學生時代の親友に逢ふと、泪ぽくなつちまんだ」

と年に不似合な赤髯をなでながら言つた。

「俺も變つたゞろう、君も變つたなあ」

「學校を退學すると直に、北海道を飛び脫した俺だ、それからは實社會に於ける苦勞をなめて來たよ。時折昔の腕白時代の想ひ出が湧くんだ」

「そうだろう」

札工に在學中は二年級同盟運動を起して、登校せずその爲學校當局は大狼狽し校門には、警官が警視してゐる。生徒側は、雪中に焚火して登校せず志て、論駁運動に氣焰を揚げ、校長排斥演說を堂々雪荒ぶ中に於てやつたものである。

幌都を騷喧せしめた發起人が二人集つたものであるから、中々痛快である。

「あの頃は愉快だつたなあ!」

「何程、教諭の頭を打擲したことか」

昔の語りと現在の生活狀態などを語してゐる間もう夜に入つてゐた。そして此の小屋の中に拾八世紀の遺物、五分具ランプが暗く燈いてゐる。そして外には秋時雨が降りそゝゐでゐる音が靜かに訊ねてゐる。

山の夜は靜かである。

——杣と人夫

生活狀態——

此の土地はリンパル澤と言つて杣小屋が四拾戸も散在してゐる。巍巍なる山が聳ねて、霧雲が漂つてゐる繁殖の樹木は、ナラ、トドエゾ松などで大きな直經六尺もあらうと云ふ樹も珍らしくない程である。

一つの小屋には杣頭一人と杣だけ三拾人たり杣頭は杣だちの本當の選擧——情も運動もない正しい信任に依つて選ばれる、だから杣頭の權力は絕對で、杣たちの信服も亦絕對である。

日に受ける賃金——此の邊の杣は大低二圓五十錢から三圓六拾錢內外である。それは杣頭がきちんと保管してゐるのである。

春から一生懸命に伐し貯き、一度、各々村に飯るのである、そして妻を打ち興じたり子供等と心から踊り狂つたりして三拾四拾になるそまたちまで、ほんとに指折り數えて、盆の近づくのを待ちこがれてゐる。

——盆　拾六日

正月から待つた——

さう云ふ盆唄は決し盛等に取つては、誇張ちやないのである。かろい微笑の內に歲をとり、正月を樂しくおくると、冬籠と云つて山に亦出掛けて小屋で冬を暮らす。伐した材木を雪を利用して、山から辷べり落させ、それを豆馬橇に運搬させる、運搬した材木は春から夏に掛けて、天鹽川から流材をほどこすそうである。此の仕事の仕方は道內の土地にもよるのである。總て不同一である。

芳醇無比

白馬の雪

松本德一吟釀

電話(平)七五二

明日の吉凶

舊曆十一月三日　新曆十二月三日

▲一白の人　目上識者の意見を尊重するが尤も安全の日▲二黑の人　意地を張り過ぎる時は不爲めを釀すことあり▲三碧の人　向ふ見ず進む氣の生ずる日蹉跌する勿れ▲四綠の人　利益を度外視して迄も突進して悔ひある日▲五黃の人　氣移りのせぬやう從來の業を眞直に精勵すべし▲六白の人　小人の言を妄信するときは不測の災厄を招く▲七赤の人　活氣みち和合もありて十分に立働かれる日▲八白の人　出つること多けれど入ること更に大なるべし▲九紫の人　意にみたざることは胸にたゝんで置くが安全

講談　幕末奇傑 高山彥九郎 (11)

中西洋々作　布施長春畫

佐吉一家(四)

「たみつ!」

佐吉は、しかし、娘のそへてくれる箸に口もつけようともせず。力ない聲で云ふのでした。

「これは、米でたいたのぢやな」

「はい」

たみつは、けゞんさうに眉をひそめて、父をみかへりました。

佐吉は、いつか、聲を嗄らせて。

「家には、もう、とうに米がなくなつた筈だが……この米は、どこからもつて來たのかな、まさか……」

「いゝえ、お父さま」

おみつは弱々しい父の言葉を、輕く否定するのでした。

「このお米なら、御心配なさいますな、これは、細谷の甚作兄さんが、もつて來て下さいましたのですから……」

「なに。甚作が……」

「はい」

「あの、おとせではなく、甚作がもつて來てくれたといふのか」

「はい。そして、今日はどうにも出來ないがいづれ二三日中には、きつと、よいお醫者樣をつれ申すからと云つて」

「うむ」

彥九郎には、すつかり事情が分りました。そして、甚作の改心が、たゞ、一時の云ひのがれでなかつたことが、更に、彼の心を樂しませました。

が、この重病人は、果して、もう二三日甚作が、醫者を迎へる金の算段をしてくるまで、生きてをれるかどうか。素人目には、どうにも覺束なく思はれるのでした。今、醫者に見せなければ、も早、とりかへしのつかぬことになるのではあるまいか、さうした取越した不安さへ、彥九郎の心には浮んで來るのでした。

「さうだ」

その時、何を心に決したのだらうか、ひとりうなづくと、改めて、彥九郎は、案内を求めました。

「御免!」

「はい!」

すぐに、物怖けたようなお光の聲が答へました、ひこ九郎は、叮嚀に、

「ちと、ものをお訊ねしますが、百々村の佐吉さんと仰しやるのは、こちらではないでせうか」

「はい、あのう手前どもでございますが……」

お光は、何か、一言二言父とうなづいた後に、座を立つと、土間に下り立ちました。

「あのた、どなたさまでゐらつしやいますか」

「細谷村の高山といふものですが……」

「ね?高山さま?」

云ひ乍ら、お光は、戶口に近づいて、さつと板戶をひきあけました。

「まあ!」

「御免下され!」

云ひ乍らすつと、入つて來た、ひこ九郎を床の中から病み衰いた眼をぢつと見はつてみつめてゐた老佐吉は、その時、感謝しきつた聲でかう呼びかけました?

「たゝ、あなた樣は、高山のお坊ちやま、ぢやごせねませんか」

「え?そなたは?」

ひこ九郎は、流石に出鼻を挫かれたような思ひで問ひかへしました。

「そなたは、私を知つておるのか」

老佐吉は、床の端までにぢり出て來て、

「ねゝ、く、知つてをりますとも。あなた樣には、まだ、一ぺんもお目にかゝつたことはごずりませんが大旦那さまの御在世のころに、生きうつしなので……」

いつか、涙に頰をぬらし乍ら、老佐吉は、しげくとひこ九郎に見いりました……。

七五三御祝着

御花嫁御祝着特賣

金解禁と新安値

全商品の宣傳價

十二月一日ヨリ

人形七五三宮詣り陳列　(十一月二十五日ヨリ)

三井呉服店

石炭ノ特賣

當店小賣部開設三週年紀念トシテ特賣致シマス

磐城炭礦一等塊炭

正味　十貫目　金六十錢

炭價ハ日ニ日ニ向上致シマスガ今回特ニ金六十五錢ノ品ヲ金六十錢ニ値下致ス次第デス

◎目方ノ正確 ◎品質ノ優良　ハ當店ノ特色デス

電話二三七番　配達ハ一俵ヨリ致シマス

平停車場前

阿部石炭商店

「七五三祝着」の賣出し

七五三の御用意は

ツルヤへ!

可愛らしい子供服

オーバー　四圓五十錢ヨリ

マント　二圓五十錢ヨリ

毛糸エリマキ　六十錢ヨリ

毛シャツ　五十錢ヨリ

子供帽子

箱迫

レース付服エプロン　二十八錢

その他皆様の御氣に召します樣

新しい品を取揃へました

平町四丁目

ツルヤ

電一四〇

清釀　造元　世界吉

銘酒

各炭礦御用達

石城小名濱町

清水屋

小野晋平

電話六番

毛糸編物講習

生活改善は衣服から

消費節約も衣服から

發育盛りの小供には

毛糸編物が第一

夜間輕便文化器の

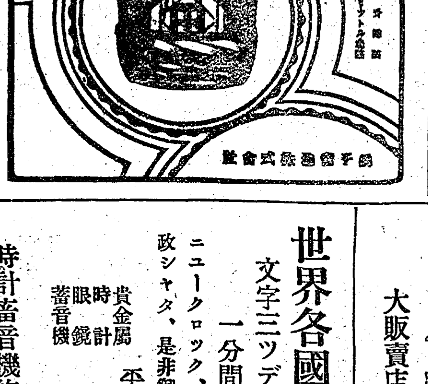
編物を無料講習致して

居ます、どうぞ

御遠慮なく御出で下さい

平町田町　藤田女學校隣

ハシモトヤ糸店



特約店

平町田町

廣瀬支店

電話五四番

世界各國特許新形掛時計

文字三ツデ時間ヲ表示スル

一分間表示正確無比

ニユークロック、諸會社病院學校商店向キ着荷致シヤタ、是非御買上ヲ願マス

貴金屬　時計　眼鏡　蓄音機

平町五丁目

金光堂時計店

電話七三六

時計蓄音機修理大勉強

大阪賣店

平町五丁目角

山野邊藥局

△染色力……確實

△使用法……頗る簡便

△價格……低廉

定價……小瓶二五　中瓶三五　大瓶五〇

新築落成

耳、鼻、咽喉科　氣管食道科　(專門)

平町南町(舊診療所向電一七〇番)

大和田醫院

大和田郡司

自炊の便あり

◆內臟一外科　◆外科一般　◆花柳病科

入院隨意　自炊の便あり

平町田町大通り

安齋外科醫院

電話四三六番

夜間診療

胃腸

內科　十二指腸虫病

專門

內科部

淋病　婦人病　皮膚病

專門

外科部

松村胃腸病科醫院

(平南町電話一〇七番)

平町の眞ん中に 兒童の遊園地
南町廿三夜堂附近に 實現具體案成る

平町南町元菩提院地内にある廿三夜尊は堂宇甚だ腐朽して居るのでこれが管理者の菩提院住職桐原純英師は檀家と協議の上近々堂宇を改築することにしたが同廿三夜尊は今後平町の中心となる現平署の附近にあり殊にその境内四百餘坪の周圍は人家櫛比して居る關係から桐原師は境內全部を解放してこれを兒童專用の遊園地になさんものと決意し寺總代人にはかつた所總代人側でも非常によろこび直ちに贊成したので同師は堂宇改築を機にこれが實現を計る事となつたが現在の平町には兒童遊園地の設備ないめた町の中央部に居る兒童等はそれがため往々不祥事を惹き起してゐたので桐原師の遊園地が早晩實現さるれば當然斯うした事故は防止され同時に兒童衛生方面にも好結果をもたらすので町民一般から非常に期待されて居る右について伏見平町長は語る

町としても遊園地建設については兒童保健の上から見て充分考慮はしてゐたのであるが何分財源がないので困惑してゐた次第である今回桐原師が町の中央に遊園地を建設するといふ事は兒童の爲めにも亦町のためにも非常に喜ばしい事である云々

猛ちゃん轢かる
翌朝遂に死亡

平町久保町高橋與仙四男猛(五)は三十日午後三時ころ自宅附近で遊戯中平町好間軌道會社運轉手鈴木章(二七)が運轉して平から好間に向ふ同社乘合自動車に轢かれ腦震盪を起し同町矢吹病院に入院手當を加へたが一日朝死亡した

自動車の通れぬ 危險な破損橋
管內に三十一ケ所ある 平監督所の調査

磐城地方における乘合並に貨物自動車の發達は全く目ざましく如何なる路線でも國縣道は自動車の入らざる所ない狀態であるが斯くの如く道路使用が激しいだけに道路橋梁の破損甚だしく縣當局の修繕復舊工事も財源關係で遲滯して居るため平土木監督所管內だけで百貫以上の重量物の通過危險なる橋梁三つ百五十貫以上二十一、二百貫以上七合計實に三十一の多きに達して居るこれ等のうち九ケ所は架替工事のための假橋であるが殘る二十二ケ所は何れも老朽危險なるもので平土木監督所では右三十一ケ所に對してそれ〲所定以上の重量物の通過を禁ずる立札を立てることになつたが自動車は空車でも百貫、二百貫と言ふ重量ありいづれも積載量一トン乃至二トン(一トンは約二百七十貫)を許可して居るので運轉許可と一致せず見やうによつては相當問題であらう危險なる橋梁箇所左の如し

◇國道の部
△双葉郡久之濱坂口橋△同長澤橋△同鹿島橋△同大久村田中橋△同岩觀音橋△同矢ノ目驛橋△石城郡渡邊村高橋

◇縣國の部
△双葉郡廣野村第二山の神橋外二十三ケ所

情夫が糸を引いて 前借詐欺の女
四倉に潜伏中捕はる 平町地方の被害

長野縣筑摩郡坂井村字松葉三六五和久多四女西澤友江(一九)は性來の淫奔女であるが遂に親に勘當され各地を流れ歩く中不良青年某の甘言に乘せられ本春五月東京吉原山口樓に前借千二百圓で娼妓となつたが逃走し本秋九月まで浦和、仙臺、鹽釜等の飲食店から前借を踏倒して逃走し九月十八日石城郡湯本町笠井町飲食店磯崎淺吉方に前借二百五十圓で住込み三日目に逃走せんとした所を主人に發見され十月二十一日中村町袋町飲食店武島とよ方に鞍替したが擧動不審の點あるので警察署に突き出し取調べの結果右事實を自白し同時に靜岡縣榛原郡坂部村字切山一二七住所不定無職鈴木德三郎(四三)が蔭になり糸を引いてゐることも判り同人が石城郡四倉町伊藤專藏方に潜伏中を二十九日中村署の中島刑事部長が出張檢擧して目下取調べ中であるが他にも餘罪ある模樣である

七十歳の老人 土藏師
各地荒し餘罪

石城郡澤渡村加藤龜治方に去る十四日土藏裏手壁を破り賊忍び込み衣類十二點九十圓のものを竊取逃走したが犯人が同一手段で同村近郷內鄉村其他を荒し廻つてゐるので平署で搜査の結果二十九日に至り石川郡母畑村竊盜前科九犯大串音松(七〇)といふ稀代の破藏犯人の處爲なること判明同日午後五時同人を自宅から逮捕し家宅搜査の結果山の如き藏品を發見餘罪取調べた末去月二十四日西白河郡大沼村關根吉平方土藏を破り布團外十一點十一月十三日西白河郡釜子村吾妻屋旅館の土藏を破つて衣類千五點同月二十八日同郡吉子川村鹽田豐吉方土藏を破つて衣類七點を竊取したこと自白餘罪にて取調中

平地方荒しの 兇賊自白
餘罪を取調中

昨報平署で取押へた南會津郡伊北村大字只見當時住所不定目黑平三郎(三三)は同署の取調の結果本年一月十九日石城郡磐崎村字藤原小畑長之助方から現金四十五圓を竊取した外三十七件其額も六百餘圓にのぼり平町を中心に荒し廻つたのであるが更に同人は去る十月二十七日午後九時頃石城郡三代村地內で平町才槌小路荒垣よね(三六)に暴行を加へんとして果さずよねの金側時計を强奪したことを自白した

四倉セメントで 五十九名解雇
事業半減の計劃で 四倉署で警戒

石城郡四倉町磐城セメント四倉工場では賣行不振から一ケ月八萬三千樽の生産能力あるところ十一月一日から、半減することに決し節費節減を行ふことになり卅日突如十五ケ年以上勤續の各部職工長七名を馘首し解雇手當として日給百日分を支給また同郡大野村字玉山から採掘するセメント原料石灰石の運搬は會社直營を廢し一日平町堀江工業會社に請負したゝめ從業員五十三名に對し日給廿日乃至四十日分を支給して解雇した目下從業員に不穩の形勢なく表面平穩たが四倉署で萬一を警戒中

磐炭軍が 慘敗
きのふ圍碁戰

磐城炭礦と日立の圍碁戰は既報の如く昨一日午前九時より內郷職員倶樂部に開き遠征の日立軍を迎へて雪辱の氣に燃ゆる磐炭軍は力戰大いに努めたが濱崎主將の健康的欠陷から士氣大いに鈍り四十回戰中八點の差で惜敗した

石城の水害 四萬圓
破損七十六所

石城地方を襲つた去月二十六日の大出水で平土木監督所管內の被害箇所は道路四十五ケ所、橋梁十ケ所、河川二十一ケ所合計七十六ケ所で被害高は湯本町湯川に架せられて居る高橋の中折橋臺流失による復舊費六千餘圓を始め總額金四萬圓に達してゐる

無免許桂庵
四倉署に捕はる

四ツ倉町字町頭松の下料理店內伊藤乙次郎方に自稱埼玉縣浦和町常盤櫻町八事周旋業鈴木今朝五郎(四〇)が宿泊したが右は無免許にて人事周旋業をなし處々を徘徊し居たことを廿九日四倉署員に取押へられたり

平町の家主連も 自發的に値下
來る八日聚樂館で 家賃値下演說會

平町地方に於ける家賃値下運動に先鞭を付けた社民黨石城支部では八日午後零時より聚樂館に於て猛烈な値下運動演說會の蓋を切る事になつた此れより先き平地方に於ける第一の大家主たる加藤丈矢氏は今春此の輿論に先立つて貸家に百餘戸に對して斷然一割の値下を決行しており更に柳町山崎喜正氏を始めと最近に至つては百澤易與氏も一割乃至二割値下を斷行してゐるので此の家賃値下運動は一般家主の良心を動すに至るものと〱觀測されてゐる

四倉立木競賣

四ツ倉町役場では來る五日午前九時より午後二時迄で同町有林松立木千二百五本の競賣がある筈

私の戀愛觀（二）

城山　宮古清三

このやうに明治の先覺者によつて日本の女性の立場は非常に向上したが、女性自身を目醒ましめたのには一方において外國から輸入された近代文學——、殊に自然主義の文學があづかつて大いに力があつた譯である。こゝに一言いつて置かねばならないことは、芝居や小說となると一般の人々の中には、普通われ〱の生活とは非常に隔りがある

ある嵐の夜、樵夫の家の扉を叩くものがある。彼は誰かと思つて出て行くと、それは意外にも彼の戀人であつた。彼は雨に濡れた戀人を室內に入れて夢かとばかりによろこんで抱擁する戀人は彼の腕の中に抱かれながら、疲れたのかすや〱と眠に陷る、彼は戀人の安らかに眠つた姿を眺めながらこんな幸福な瞬間は二度と來るものではない自分はこの幸福な瞬間に戀人の全部を捉へて離したくない、それには一思ひに戀人を殺してしまふのが一番だと考へて遂に戀人の捲毛で首を絞て殺す。彼が警官に捕へられて、法廷で罪の審きを受ける時自ら何にも罪を犯したのではない、自分は戀愛の最も幸福な瞬間をはなしたくないために彼女を殺したものだ、戀愛こそ、如何なる道德よりも至上だといひ放つ、之ば同時に作者ブラウエングの思想であつてかゝる戀愛至上主義が現代のわれ〱にとつて如何に空想的なものであるかゞ分るであらう、これは要するにわれ〱が日常生活において求めやうとして得られないものを單なる憧憬として描き出したに過ぎない。

ロマンチック文學の多くは常にこうした空想的な戀愛が主題となつてゐるが、近代文學中最も重要な主題となつてゐるものは、戀愛の三角關係を取扱つたものである即ち一人の女を二人の男が戀してそこに葛藤が起る、またそれと反對に一人の男を二人の女が愛するといふ風に、この三角關係を取扱つたものでやゝロマンチックなものにゲーテの「エルテルの悲しみ」ダヌンチオの「フランチエスカ」等がある。またそれよりも現實的なものとしてメーテルリンクの作品、或はハウプトマンの「寂しき人々」等がある。

日本の近松の世話物にもこの三角戀愛を扱つた作品が可なりある。その最も代表的なものとして「天の網島」といふ作品がある。この作品は三角戀愛の葛藤をある程度まで解決してゐる

この「天の網島」の荒筋はかういふのである。おさきと治平といふ仲のいゝ夫婦があつたが、治平はいつからともなく廓通ひを始めて小春といふ女と馴染となる。女房のおさきはこれを知つて、小春といふ遊女に手紙を出し、治平は自分の大切な亭主だから、何とかしてあなたのところへ通うのをあきらめるやうにさせてくれと懇々と頼んで來たのでお春も氣の毒に思つて態と治平に冷淡になるその中に彼女はある嫌な客に身受けされたが。それも長續きせず。また元の遊女生活に入る、ところがこれを知つた治平はお春がそれ程に自分を思つてゐてかと以前に勝るこわ心が起つて、遂に情死するに至るといふのである。これなどは、一人の男二人の女がこえしてゐるにも拘らず二人の女の間には別に嫉妬といふやうなものはなく、二人が互ひに理解し合つてゐたといふことは、三角れん愛の解決に對する面白い暗示である。

夏目漱石の「行人」といふ小說にも弟が兄嫁に私にこひするところの三角れん愛が扱はれてゐるが、漱石らしくそこには何等素面的な葛藤がなく結局弟が私かにこひするといふことに止まつてゐる

磐城共濟病院の 十四回無料診療
きのふ富岡町で

平町磐城共濟病院では去月二十一日小野新町に無料巡回診療をなし非常な好成績を示したが昨一日午前九時より富岡町龜屋支店に難波博士外五博士を初め賀澤主管以下總動員して第十四回の無料診療を行つたが木戸、龍田、大野、夜之森、熊町、長塚、新山、浪江その他双相二郡より押し寄せる患者四百餘名に達し醫員諸氏の熱心必死の大馬力で診療に應じたが診療未了のもの約百名程を出し非常な成績であつたが本年は之れで打きり明年早々更らに無料診療を行ふと

木村代議士
四倉有志歡迎會

四ツ倉町町會議員區長等の發起で今日外遊を終り歸朝した木村代議士の有志歡迎會は三日午後一時より四倉座に於て開催する筈、會費壹圓で出席多數を豫想されてゐる

不動守頓死
祈禱の行脚中

赤井村不動瀧祠守早瀨川末道(六二)は昨一日午前十時頃好間村下好間字大舘附近を祈禱修業中老衰の結果頓死したので平署から係員出張檢死したが身元引受人がないので村役場に引渡したと

石城郡の 海兵志願
七日檢査執行

石城郡海軍志願兵採用檢査は來る七日午前七時から平町第一校に於いて擧行する

荒井署長全快

荒井平署長は眼病のため瀧京治療中であつたがこの程全快したので一日午後四時半歸平今二日より出署した

若松縣參祝賀
六日住吉屋で開く

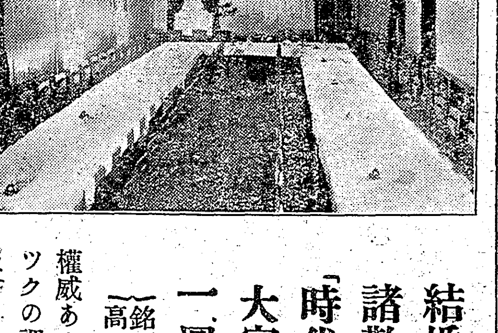
石城郡選出縣會議員若松美三氏は同志野崎滿藏氏と縣參の椅子を爭奪し美事當選の榮を贏ち得たので若松氏一派では三日午後一時から平町住吉屋本店に於て當選祝賀會を催す由

磐新塔

赤井村閼伽井嶽藥師堂に本年三月金華山から十頭の鹿を移殖したが其後大變經過も良いので此の分では益々繁殖すると旭純榮管長を初め地方民の悅びも一方でないわざ〱鹿見物に出かける人も少なくないが去る一日一頭が逃げ出たことを知り大騷ぎを演じたが遂に發見する事が出來なかつたと

平町田町
高久病院
電話五一三番

平町南町
上田醫院
電話一二九番



平町南町
丸昇軒食堂
結婚披露會
諸歡送迎會
「時代は緊縮」
大宴會を
一圓會に願ひます
〔銘酒白馬の雪一本
高級料理三品附〕
權威ある帝都一流のコツクの調理を誇こ致します

外科 醫學博士 藤本順
產科 婦人科 院長 木村寅次郎
平町新川町
木村病院
電話一六四番

內科診療
消化器病科　呼吸器病科
小兒內科　一般內科
入院應需(自炊ノ便アリ)
平町鼠坂
渡邊內科醫院
電話一六一番

◎獨乙フンケル會社製
蓄音器針新荷着
◎一本の針デ五回モ使用ガ出來ル
◎高音低音ノ調節自由
◎値安ハ舶來品中デ最モ安イ勿驚
(二百本入五十錢)
△この最モ經濟的ナルアノ入針ヲ御薦メ致シマス
特約店 **大谷時針病院**
電話十九番

外科
一般外科
泌尿科
婦人科
醫學士 海津俊一
X光線科
院長 木下寅一
新妻由五郎
赤心堂病院
平町田町電四七五